



【きみといるとあんしん】

巻頭言

きびしい子どもの現実

子どもシェルターモモ理事長
東 隆 司

自立援助ホーム「おおもと荘」には、16歳から18歳までの5人の男の子が入居しています。私たちにとって一番の悩みは、子どもたちが自立できる程度の収入の仕事が見つからないことです。

ある子どもは、最初、建設業の現場で働く仕事に就いていたのですが、職場の同僚や上司のイジメに遭い、1か月も経たない間に退職せざるを得ませんでした。その後、溶接業の仕事を見つけたのですが、不況のために仕事のできる日が限られ、手取りがあまりに少なかったため、これでは仕事を続けても自立はできないと、自分から退職してしまいました。

別の子どもは、コンビニエンスストアのアルバイトをしていましたが、勤務時間が夜間になることが多く、体調を壊し、その上給料が少ないこともあって退職しました。また、別の子どもは、高校を途中で退学しているため、高校教育を最後まで受けたいと希望していますが、高校に通いながらできる仕事が見つかりません。

高校や大学を卒業してもなかなか仕事に就けない時代に、中学校を出ただけの子どもや、高校を中途退学している子どもたちにとって、定職に就くには高いハードルがあるといわざるを得ません。仕事が見つからないと、将来に展望が持たず、イライラがつのり、生活態度も投げやりになりがちです。

仕事探しや高校への転入学を援助するのも子どもシェルターモモの仕事と考えていますが、このような状況になると、思わず弱音が出てしまいそうです。子どもたちにできる仕事の心当たりや子どもたちが有意義に時間を過ごすためのプログラムのアイデアやご支援してくださる人がありましたら、是非ともご紹介ください。

CONTENTS

- ・ 巻頭言 1
- ・ インタビュー人 2
- ・ おおもと荘通信 3
- ・ 事務局だより 4



—なぜ弁護士に？

親からは医者にと勧められましたが、命にかかわる仕事は嫌で、大学（東京大学）は法学部で学びました。卒業後はある大手企業に勤めていましたが、会社に矛盾を感じて退職。その時同郷の上司が心配して「これからどうするんだ？」と聞かれたとき、「司法試験を受けてみる」と言ったのがきっかけです。司法試験を経て、裁く人は嫌だったので弁護士に。目標があったわけではありません。平成9年に弁護士登録をしました。

—どんな子ども時代？

両親が食堂を経営して忙しかったので、元軍人の祖父母の家によく行っていました。祖父と将棋や碁をよくしていました。おじいさん子です。小学生時代はソフト、中学、高校はバレー部で活動していました。体育会系ですね。でも大学はマージャンばかりしていましたね（笑い）。

—ハンセン病を始め、多くの人権救済の活動に関わられていらっしゃいますが

ハンセン病には10年ぐらい関わっています。会社を辞めたのもそうですが、僕は自分がやりたいと思ったことはやってみたいという思いが強いのかな。いろんな分野のいろんなことに興味津々です。いろいろやっていく中で「あれもあつたらいいなあ」「これは必要だよなあ」と思えることがいっぱい出てきて、それをやっている充実感を感じます。それが軌道に乗り始めたら、次に外れられればいいなと思っているんだけど、それがなかなか外れられなくて…（笑い）。

今、精神障がいのある方をサポートする活動もやっていて、作業所やグループホームの企画など、まだまだやりたいことがいっぱいあるんです。

夢を語ろう！！

—シェルターモモもやりたいことの中の一つですか？

僕がやっている活動と子どもたちは繋がっていると思っています。例えば精神障がい者や入居支援が必要な人の受け皿ができれば、次に子どもたちの受け皿に繋がっていくのではないかとも思っています。

子どもたちへの強い思いは以前から持っていて、少年事件の付添人は一年に数件やっていました。

金地さん（現モモ事務局長）と出会ったことで自立援助ホームを岡山にもつくろうと考えるようになりました。同じ考えの人が膨らんできたところでやろうとチャンスを待っていたのです。カリヨン子どもセンターの一場順子弁護士を講師に招いた、2回目の研究会は、多様な職種の人が大勢集まってくださったので、このチャンスを逃してはと、定期的に会合を持つことを決定してもらって、東弁護士（現モモ理事長）をはじめとする弁護士の有志、金地さんたちと立ち上げの準備を進めてきました。

—シェルターモモの今後は？

今はシェルターも自立援助ホームも始まったばかりで手探り状態ですが、子どもが入所して独立していくまでの流れができればいいなと思っています。ある程度それが見えないと、子どもたちに「次」が見えないのではないかと思います。そして、自立して独立しても「モモ」と繋がっていて、彼等をサポートできるような仕組みができればと思っているのです。

また、働いて賃金を得る前に社会体験の場を提供することも必要なのではと思っています。そのため人の輪を広げていきたいし、彼らが夢を持てるような環境を作っていければと思っています。

それには、役員やスタッフがそれぞれ持っている夢を大いに語りあい、構想を持つことだと思います。



おおもと荘通信



チョコの山！バレンタインデー

2月14日、バレンタインデー。女性職員から手作りチョコレート子どもたちにプレゼント。さっそくその場でほうばり、「ありがとう！これ、チョコの味がする！」と、照れ隠しの一言(?)。子ども担当弁護士やボランティアの方などもチョコを持って訪問して下さり、子どもたちと一緒にコタツに入って話をしたり、おいしいチョコレートを頂いたり、にぎやかに楽しい時間を過ごしました。子どもたちは職場でもチョコを頂いたようで、しばらくは甘いものに困らなかったとか。

お忙しい中、チョコを持って来てくださった皆様、あま〜いひと時をありがとうございました。



女性職員の手作りチョコ

クリスマス会はお好み焼きで

12月23日、お好み焼「やよい」を借り切ってクリスマス会を開きました。総勢20名の方の参加をいただきました。アルバイトの合間をぬって参加した子どももいて、彼らは参加者の方々と一緒に、ジュウジュウと思ひ思いに焼き、いただきました。



プログラム最後のピンゴ大会には白井サンタ登場！シャンシャンという鈴の音とともに、なまはげよろ



しく「いい子はいねえ〜か？」と白い袋を担いで登場。子どもたち一人一人にプレゼントを渡しました。照れながらプレゼントを受け取る子どもたちの笑顔。

雨降り後の寒い外気とは対照的に、ほっこりした会となりました。

子どもたちの「ホーム」に

「男性の方がメンタル的には弱いですよ。自分もそうだから」と、話す西浪さん。今まで勤務してきた施設とおおもと荘との違いは、(よい意味で)成果を望まないところ。初めから入所期間を決めて、期間が終了したら「終わり」としてしまうのは、簡単です。でも、子どもたちの意向を汲みながら、必要とするアドバイスを必要なタイミングで伝え、何気ない日常を過ごすことは難しいけれど、大切なことなのです。

子どもたちが、ここを出て行く日がきても、年に1、2回でもいい、連絡をくれたらいいなと思います。子どもたちとの関わりを続けていくことが出来ることも、おおもと荘だからできることなのだと思います。子どもたちが気軽に帰ってくる事が出来る、おおもと荘であります。

今は、日々が勉強です。目指すのは先輩方のような器の大きさです。座学だけでなく、子どもたちとの日々の中で、まだまだ体で学んでいくことが多くあると感じています。お互い近づきすぎるとしんどくなる。その距離感が難しいですね。



連載

おおもと荘スタッフ紹介

しら なみ あつ し
西浪 徳之

おおもと荘新ホーム長の西浪さんは、
大学で児童自立支援福祉を学び、
児童福祉施設での勤務を経て、
おおもと荘ホーム長にこのたび就任。



子どもの頃はプロ野球選手と芸人(?)を目指し、甲子園にも出場！現在も野球チームに所属し、なんと昨年は中国大会にも出場！今年も県大会や国体予選のシーズン開始に向けてトレーニング中！幼少の頃から鍛えていたという料理は、冷蔵庫にある食材でプラス1品はお手のもの。おおもと荘の台所にある食材で作ったペペロンチーノは、子どもたちに大好評だそうです。

プロ野球選手だけでなく、芸人を目指していたことをうかがわせる(?)楽しいエピソードもたくさんお持ちです。

おおもと荘にお立ち寄りになった時に、ぜひお尋ねください。

事務局だより

活動カレンダー

2009年12月～2010年3月

2009年		
12.16	火	モモ広報部会
12.23	水	クリスマス会
2010年		
1.29	金	岡山家庭裁判所調査官おおもと荘視察
2. 1	月	三役会議
2.15	月	中国税理士会岡山東支部・西支部寄付授与式
2.16	火	オレンジリボンキャンペーンまとめ会
2.23	火	三役会議
2.25	木	第3回理事会
2.26	金	岡山家庭裁判所裁判官おおもと荘視察
3. 2	火	モモ広報部会
3.13	土	三役会議
3.19	金	岡山烏城ライオンズクラブ寄付授与式
3.25	木	第4回理事会
3.27	土	子どもシェルター環境整備

ありがとうございます！
ご寄付をいただきました。

2009年12月～2010年3月

個人

金子 雅晟	神谷 文義	清野 彰
久山きよこ	小山 博通	津吉 照美
田中 賢一	田淵 浩介	難波美智子
林坂 悦子	横谷 美加	

団体

岡山烏城ライオンズクラブ
岡山市役所職員ボランティアグループ「あじさいの会」
西大寺福祉事務所管内主任児童委員代表 根木 一江
中国税理士会岡山東支部・岡山西支部
日本アムウェイ合同会社社会貢献グループOne by One こども基金
ニューキャン美容室 島谷 長宗
平井学区コミュニティ協議会婦人部 赤井 藤子
フィリップ モリス ジャパン株式会社
(敬称略)

●スペシャルサンクス

高見 裕美 さん (表紙絵提供)

ご寄付は金額の多寡に関わりなく下記へ
ご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座

01370-4-52835

特定非営利活動法人

子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付である旨ご記入)
いただければ幸いです。

このニュースレターは共同募金の
配分金によって発行しています。

赤い羽根
共同募金

平成22年度定期総会のご案内

- ・とき 平成22年5月29日(土)
- ・ところ 岡山県立図書館2F
多目的ホール

午後2時より東京世田谷区にある、児童自立
援助ホーム「憩いの家」元ホーム長三好洋子
さんの講演を予定しています。その後、3時
45分より総会開催予定です。皆様のご参加を
お待ちしております。

女子専用自立援助ホーム

「ちゃやまち荘」5月より開所

「男子専用自立援助ホームおおもと荘」「女子専用
子どもシェルターモモ」に続いて、「女子専用自立援
助ホーム」を立ち上げるべく、平成22年5月事業開
始に向けて準備を進め、関係機関等と協議をしてい
ます。岡山県で開始届が受理されれば、一部改修工
事を行い、受け入れを開始する予定です。理事会で
命名をはかりましたが、土地の名前が親しみがわくと、
「ちゃやまち荘」と呼ぶことにしました。

オフィシャルホームページを開設しました

<http://www.shelter-momo.org>

このホームページは、「2009年度ザ・ボディショ
ップ・ニッポン基金」の助成金を頂いて作成したも
のです。ホームページの中でモモのCMが流れますが、
このCM作成は、くらしき作陽大学・作陽音楽短期
大学の音楽専修の先生方と学生さんにご協力を頂き
ました。ホームページの活用は、これからがスター
トです。情報発信基地として力を入れていきたいです。

トピックス 他のシェルターの様子

子どもセンターてんぼ

NPO法人子どもセンターてんぼ(横浜市)では、自立援助
ホームを新築中で、平成22年6月開所予定です。開所に先駆け
て、平成22年4月24日(土)にシンポジウム「飛び立つた
めに羽を休めて IV 脱・子どもの貧困～子どもの自立に向けて～」
が開催されます。

(詳しくは、http://blog.canpan.info/tempo/category_14)